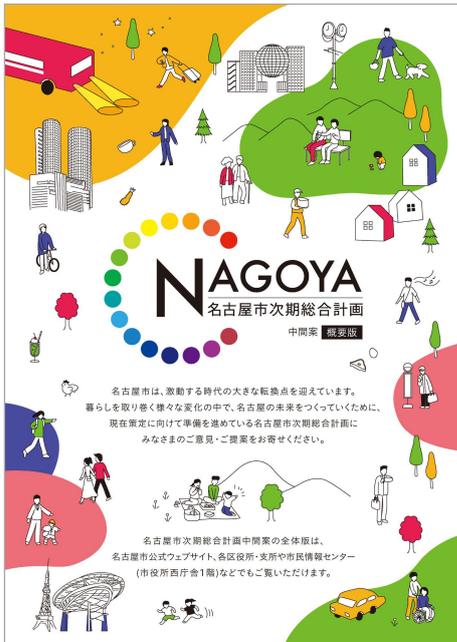


## 上位関連計画

ここでは、名駅南まちづくり方針の検討にあたり考慮すべき主な上位関連計画等を紹介します。

### 名古屋市次期総合計画中間案(令和5(2023)年7月公表)



概要版表紙

名古屋市総合計画は、市政運営の指導理念である「名古屋市基本構想」のもと、本市がめざす都市像などを「長期的展望に立ったまちづくり」として示し、その実現に向けた取り組みを総合的・体系的に取りまとめています。

リニア中央新幹線の全線開業や全国の高齢者人口がピークを迎える時期を念頭に置き、令和22(2040)年頃を見据えてめざす都市像を描きながら、令和6(2024)年度からの5年間の取り組みを掲げています。(取り組みについて、中間案では施策体系までを掲載しており、具体的な施策・事業については計画案に掲載予定)

リニアがつなぐ巨大交流圏の中心で躍動する都市、誰もが幸せと希望を感じられる名古屋の基本方針と将来のまちの姿を5つの都市像として示しています。

#### 都市像 1

人権が尊重され、誰もがいきいきと暮らし、活躍できる都市

#### 都市像 2

安心して子育てができ、子どもや若者が豊かに育つ都市

#### 都市像 3

人が支え合い、災害に強く安心・安全に暮らせる都市

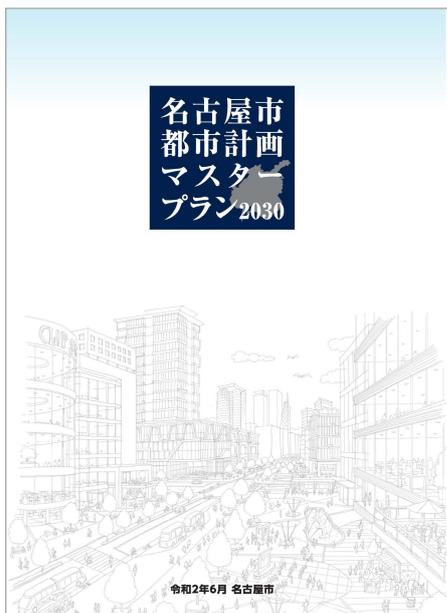
#### 都市像 4

快適な都市環境と自然が調和した都市

#### 都市像 5

魅力と活力にあふれ、世界から人や企業をひきつける、開かれた都市

## 名古屋市都市計画マスタープラン 2030(令和 2 (2020)年 6 月策定)



今後予定されているリニア中央新幹線の開業や国連サミットにおけるSDGsの採択といった時代の潮流、人口減少や高齢者の増加、技術革新に伴う産業構造の転換など本市を取り巻く状況を踏まえ、新しい時代にふさわしい都市づくりを進めるための計画として、「名古屋市都市計画マスタープラン2030」を策定しています。

目標年次は、概ね20年の長期的な見通しのもとに、令和12(2030)年としています。

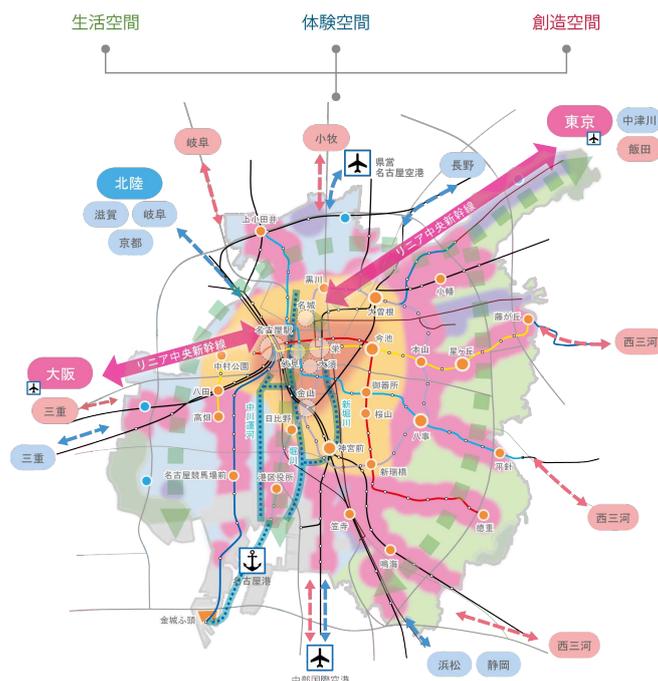
SDGsの達成やスーパー・メガリージョンのセンターとしてのポジションの確立をはかりつつ、ライフスタイルの質を高める都市づくりを進めるため、次の3つの目標を定め、その実現をめざしています。

- 目標1 暮らす(生活)：ゆとりと便利が織りなす多様で持続可能な生活空間
- 目標2 楽しむ(余暇・観光)：歴史と未来の融合で磨くオンリーワンの体験空間
- 目標3 創る・働く(経済・産業)：技術力と経済力で輝くグローバルな創造空間

また、大都市における集約連携型都市構造<sup>\*</sup>を基本的な都市構造とし、上記の各都市づくりの目標に対応した都市構造を重ね合わせた将来都市構造の実現をめざします。

### ※大都市における集約連携型都市構造

駅を中心とした歩いて暮らせる圏域(駅そば生活圏)に、商業、業務、住宅サービスなどの多様な都市機能が適切に配置・連携され、さらに歴史・文化、環境や防災に配慮された、魅力的で安全な空間づくりがなされているとともに、都心を中心に、圏域の中核都市として交流を活性化させ創造的活動を生み出す空間づくりがなされている都市構造



将来都市構造図

# 名古屋交通計画 2030(令和 5 (2023)年 3 月策定)



## (1) 概要

人口構造やリニア中央新幹線の開業、先進技術の進展など、交通を取り巻く環境の大きな変化をとらえ、誰もが快適に移動できる環境の実現を目指すため、まちづくりと連携した新たな総合交通計画として「名古屋交通計画 2030」を令和 5 (2023) 年 3 月に策定しています。

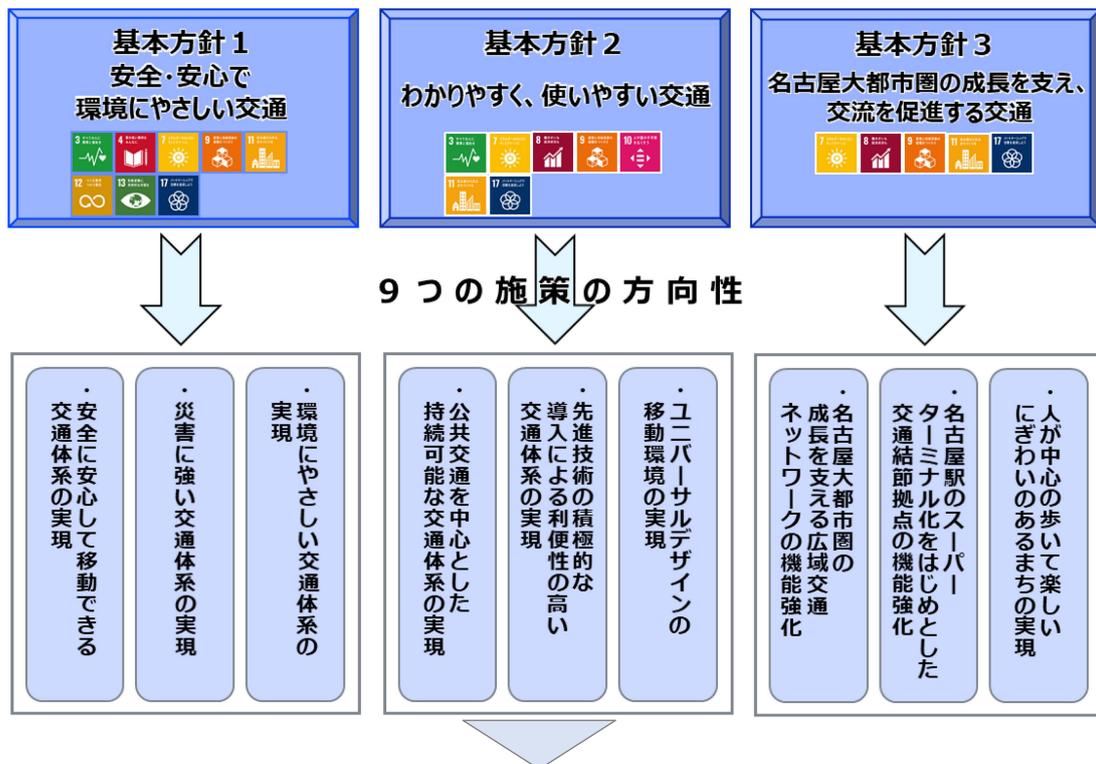
目標年次は、令和 12 (2030) 年としています。

この計画では、3つの基本方針と9つの施策の方向性を基に、「最先端モビリティ都市」の実現を掲げています。

## (2) 基本理念

持続可能な都市の発展に向けて、まちづくりと連携した誰もが移動しやすい総合交通体系を形成します。

## (3) 基本方針・施策の方向性



## 最先端モビリティ都市～誰もが快適に移動できるために～

名古屋大都市圏における中枢都市として、既存ストックと先進技術の活用により、リニア中央新幹線とシームレスにつながる持続可能で質の高い公共交通ネットワークが形成されるとともに、さらなる技術の活用による快適でスマートな移動環境が実現した都市

## Nagoya まちなかウォーカブル戦略

### (1) 概要

今後のまちづくりとして、官民のパブリック空間をウォーカブルな人中心の空間へ転換し、民間投資と共鳴しながら「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を形成することが必要です。まちなかを車中心から人中心の空間へと転換することは、豊かな生活空間を実現し、さらには様々な地域課題の解決や新たな価値の創造につながっていきます。

ウォーカブルなまちづくりを進めるため、目指すウォーカブルなまちの姿や官民が連携して取り組むための基本方針などを盛り込んだ「Nagoya まちなかウォーカブル戦略」を策定します。

### (2) 目指すまちの姿

多くの人が多様な価値観をもって暮らし、活動する都市において、自宅、学校や職場とは別に、居心地の良い特別な場所があることが大切であり、いわゆるサードプレイスが求められています。

都市空間という点で、名古屋は道路・公園をはじめ民有地も含めた空間の豊かさが特徴であることから、これらを活かして居心地が良く歩きたくなるような人中心の場所（ウォーカブルな空間）として再生することで、サードプレイスがあふれるようなNAGUYAを目指します。

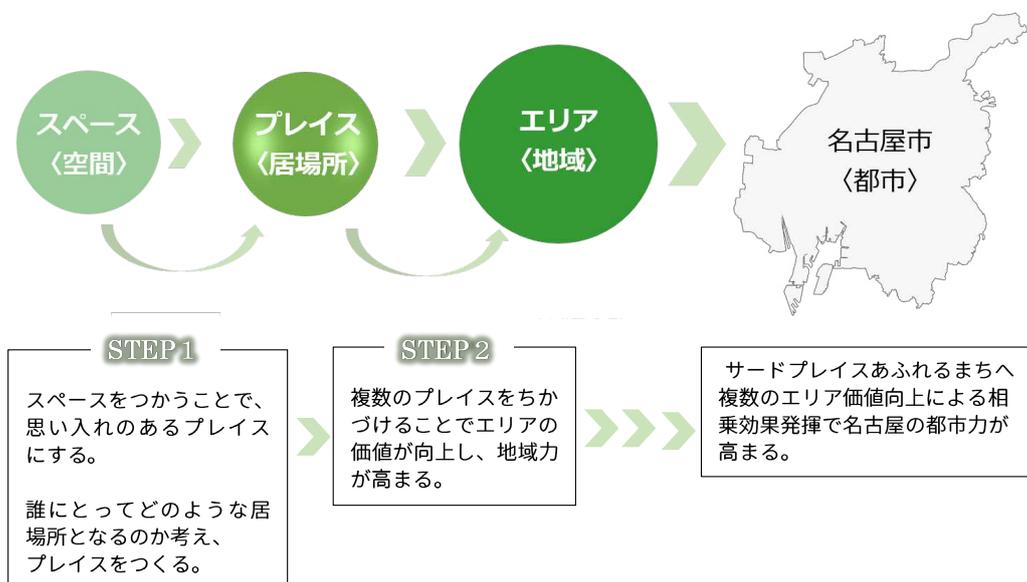
#### 〈目指すまちの姿〉

居心地の良い特別な場所

**サードプレイスあふれる「NAGOYA」**  
—居心地の良さで選ばれるまちへ—

### (3) ウォーカブルなまちづくりをすすめる考え方

以下のようなステップで取り組みを展開していくことで、市内の各エリア（地域）の価値が向上し、結果として、都市全体にウォーカブルな空間が波及します。



### 戦略1 官民のパブリック空間をつかう

まちなかの道路、公園などの公共空間を居心地が良く歩きたくなるウォーカブルな空間として活用するとともに、公共空間以外でも、居心地が良く感じられる場所となるような取り組みを誘導し、官民のパブリック空間を使いやすくしていきます。

### 戦略2 新時代の都市デザインで、プレイスをつくる

まちなかの居心地が良い空間をどのように使い、どのように維持・管理されるかまで含めてトータルにデザインする、新時代にふさわしい都市デザインで、まちなかのプレイスをつくっていきます。

### 戦略3 プレイスどうしをちかづける

距離や用途に応じた多様なモビリティの提供により、移動手段の選択肢を増やすことや、プレイスをつなぐ歩行者空間を豊かにすることにより、まちなかを歩くときの心理的な距離感を縮めていきます。

## (4) ウォーカブルなまちを実現するための要素

居心地が良く歩きたくなるウォーカブルなまちにするためには、次のようなウォーカブルなまちを実現するための要素を、地域特性などを踏まえて、組み合わせて活用することが大切です。

#### 戦略1 つかう

- ① エリアマネジメント
- ② 道路空間活用
- ③ 公園活用
- ④ 公開空地活用
- ⑤ 低未利用土地活用

#### 戦略2 つくる

- ⑥ エリアリノベーション
- ⑦ 都市景観形成地区におけるアイレベルデザイン誘導
- ⑧ グリーンインフラの活用
- ⑨ 駐車場施策

#### 戦略3 ちかづける

- ⑩ 新たな路面公共交通システム「SRT」
- ⑪ モビリティ

# 都心部まちづくりビジョン(平成 31(2019)年 3 月策定)



## (1) 概要

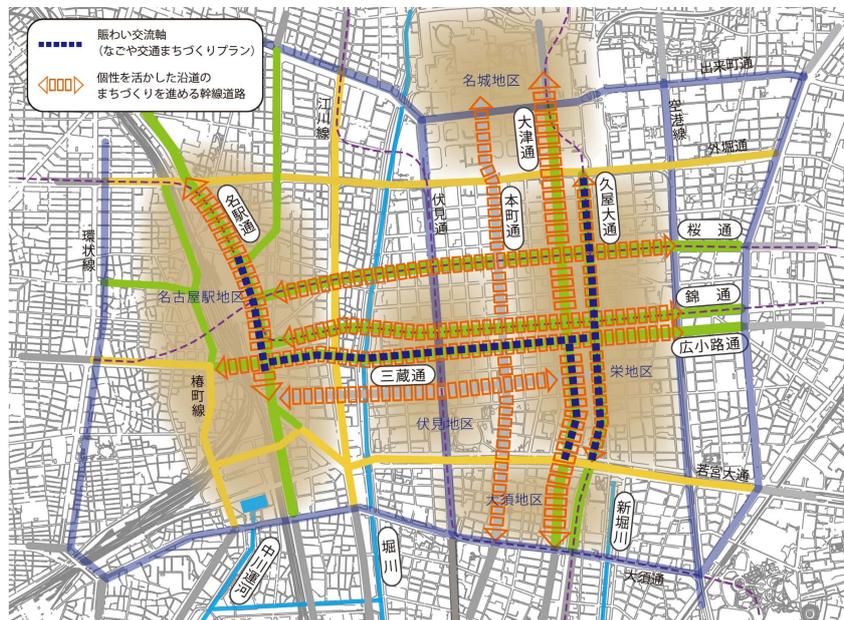
リニア中央新幹線の開業を迎えるにあたり、これからも魅力と活力にあふれた名古屋の都心であるために、そして名古屋大都市圏を超えるスーパー・メガリージョンのセンターとして日本の成長エンジンとなるためには、公民協働によるまちづくりへの取り組みを速やかに進めていくことが必要となります。

このため行政と民間で共有できる都心部の将来像として、また、都心部を対象として策定された各種のまちづくり計画・構想を総括し、全体の方向性を提示するものとして「都心部まちづくりビジョン」を策定しています。

## (2) 方針、将来像

【方針1】 国際競争力の強化と民間投資を誘発する環境整備
【将来像】 世界中から多様な人々を呼び込みイノベーションを創出するまち
【方針2】 訪れたいくなるワクワク感のあるまちを実現する都市魅力の向上
【将来像】 快適な都市空間に訪れる人々の賑わいが広がるまち
【方針3】 都会性とゆとりが両立した名古屋ライフスタイルの実現
【将来像】 ゆとりを楽しむ名古屋ならではの洗礼された都市生活を満喫するまち

## (3) 都市軸のまちづくり



主たる都市軸のうち、以下の3つが名駅南に関連します。

① 三蔵通「起業意欲と感性を刺激する創造軸」

都心部の主要なビジネス拠点を結ぶ通りとして、起業意欲を促し、クリエイティブな人々を刺激する創造性豊かな雰囲気をつくります。

② 広小路通「名古屋都心を象徴する東西軸」

都心部の主要な拠点を結ぶ名古屋を代表する東西のシンボルストリートとして、現存する歴史的建造物やシンボル並木を含めた良好な都市景観の形成と快適な歩行者空間の整備により、平行する錦通と連携して賑わいあふれる快適でうるおいある街の表情をつくります。

③ 名駅通「名古屋の顔となる駅前の交流軸」

高次の都市機能の集積により、賑わいの連続性を図るとともに、名古屋の顔となる駅前のメインストリートとして、圏域の玄関口にふさわしい風格のある街並みをつくります。

#### (4) 拠点連携と都心界隈のまちづくり

##### ■ 名古屋駅地区～伏見・大須地区

ビジネス機能の中核である名古屋駅地区と伏見地区・大須地区の中間地点において、各地区（柳橋地区・ささしまライブ24地区・納屋橋地区・名駅南地区）が相乗的に都市機能を向上させるための拠点連携

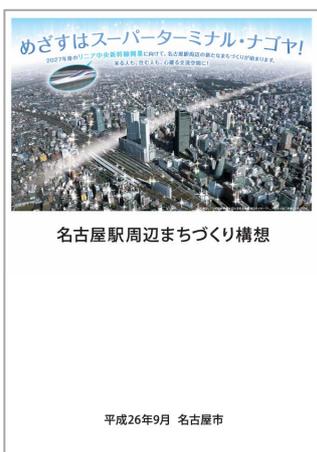
##### 【名駅南地区】

- ・大規模な低未利用土地の土地利用が進むことにより、様々なひと・まち・文化がクロスし、クリエイティブな取り組みが盛んなまち

##### 【実現に向けて】

- ・老朽化したビルの建替え誘導やリノベーションなどによるベンチャー企業の起業促進
- ・空きオフィスのオーナーと起業者とのマッチング
- ・水辺の活用や緑化の推進による良好なビジネス環境の醸成
- ・公共施設整備による低未利用地等の土地利用転換の誘導

## 名古屋駅周辺まちづくり構想(平成 26(2014)年 9 月策定)



### (1) 概要

リニア開業を見据えて、鉄道事業者はじめ多様な主体が連携してまちづくりを進めていくうえで、共有すべき目標像やその実現に向けた取り組みを示すものとして「名古屋駅周辺まちづくり構想」を策定しています。

目標年次は、リニア開業後を見据えた 15 年後としています。

### (2) 目標とするまちの姿

世界に冠たるスーパーターミナル・ナゴヤ  
～国際レベルのターミナル駅を有する魅力と活力にあふれるまち～

高いレベルの機能性を備えたまちづくりを着実に進めるとともに、広く叡智を集め、世界の人々が集まり、魅了し続けるまちを目指します。

### (3) まちづくりの基本方針、取り組み（抜粋）

#### 【基本方針 1】 国際的・広域的な役割を担う圏域の拠点・顔を目指す

- ビジネス拠点性を高める都市機能の強化
  - ・ 業務・支援機能（シェアオフィスなど）、ビジネス交流機能（大小様々な会議室、交流サロンなど）、技術等を発信する機能、大学・専門学校等の立地を進めます。
- 防災性の向上
  - ・ 大規模地震時の帰宅困難者対策や浸水対策を推進します。

#### 【基本方針 2】 誰にも使いやすい国際レベルのターミナル駅をつくる

- 交通施設間や駅とまちをつなぐ南北ネットワークの強化
  - ・ 民間再開発とも連携しつつ、南北方向の重層的な歩行者ネットワークの強化を図ります。  
(検討すべき内容) ささしま地区、名駅南地区への通路の整備 など
- 駅と都市高速道路とのアクセス性の向上
  - ・ リニアの速達性を活かし、充実した高速道路ネットワークを最大限に活用できるように、通過交通の迂回・分散を図りつつ、駅と高速道路とのスムーズなアクセス性を確保します。  
(検討すべき内容) 笹島線の整備・活用、高速道路出入口の追加・改良 など

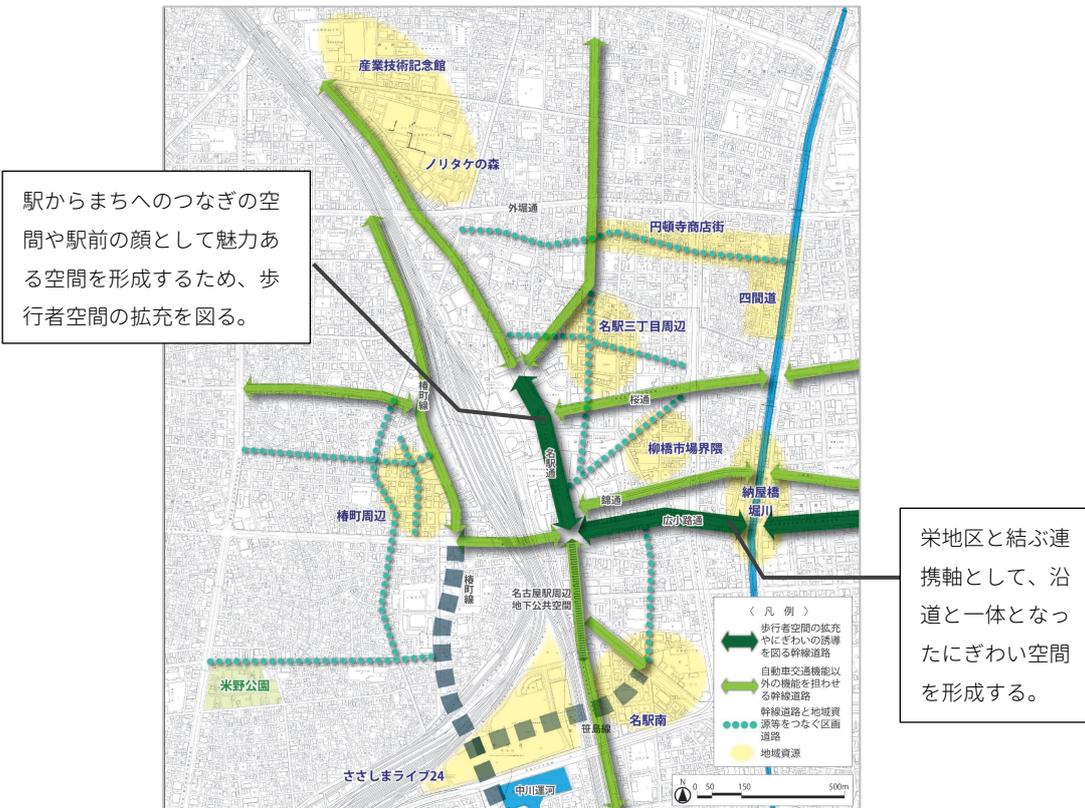
【基本方針3】都心における多彩な魅力をもったまちをつくり、つないでいく

- 多彩な地域資源を活かした地域まちづくりの推進
  - ・ 名古屋駅周辺地区にある多彩な地域資源を活かすとともに、新たな地域資源を発見・創造し、育てることにより、まちの魅力を高めます。  
(地域まちづくりを進める上での土地利用イメージ)
  - 【名駅南地区】
  - ・ 大規模な低未利用土地の土地利用を進め、名古屋駅直近の利便性を活かすとともに、ささしま地区、納屋橋地区、さらには大須とも連携する商業・業務施設、共同住宅などが立地したまち
- 魅力ある歩行者空間の形成
  - ・ 幹線道路や、幹線道路と地域資源等をつなぐ区画道路を中心とした道路空間の見直しや、民間再開発で確保される民有地内の歩道状空地などを活用して、歩いて楽しい歩行者空間を形成します。
- 新たな交通手段の導入を検討
  - ・ リニアで訪れた人が名古屋のまちを見ながら移動できる、最新の技術を取り入れた新たな路面公共交通システム導入について、都心部の公共交通のあり方とあわせて検討していきます。

【歩行者空間の考え方】

- ・ 歩行者ネットワークの骨格となる幹線道路、区画道路について、可能なところは道路空間の配分（自動車、自転車、歩行者等）を見直し、歩行者空間を拡充する。

◆ 歩行者ネットワークの形成イメージ



- ・ 歩行者ネットワークが幹線道路で分断されている箇所については、横断しやすい環境を整える。
- ・ 幹線道路や幹線道路と地域資源等をつなぐ区画道路の沿道において、民間再開発により歩道状空地の確保、緑化の推進、建物低層部への魅力的な店舗の立地などを進め、歩行者が楽しく快適に通行できる空間を形成する。
- ・ 歩行者動線が集まる交差点周辺等には、広場状空地を確保し、快適な溜まり空間を形成する。
- ・ 大規模な開発においては、敷地や建物内に通り抜け通路を設け、歩行者の回遊性を高める。

# 名駅南地区まちづくりビジョン(平成 30(2018)年 12 月策定)

(名駅南地区まちづくり協議会)



## (1) 概要

名駅南地区の持続可能な発展を目指しまちづくりを推進することを目的に、平成 28 (2016) 年に地区内の地権者法人を中心に設立した「名駅南地区まちづくり協議会」が、名駅南地区のエリアの価値を向上させるために、まちの将来像の共通目標をとりまとめています。

## (2) まちの将来像



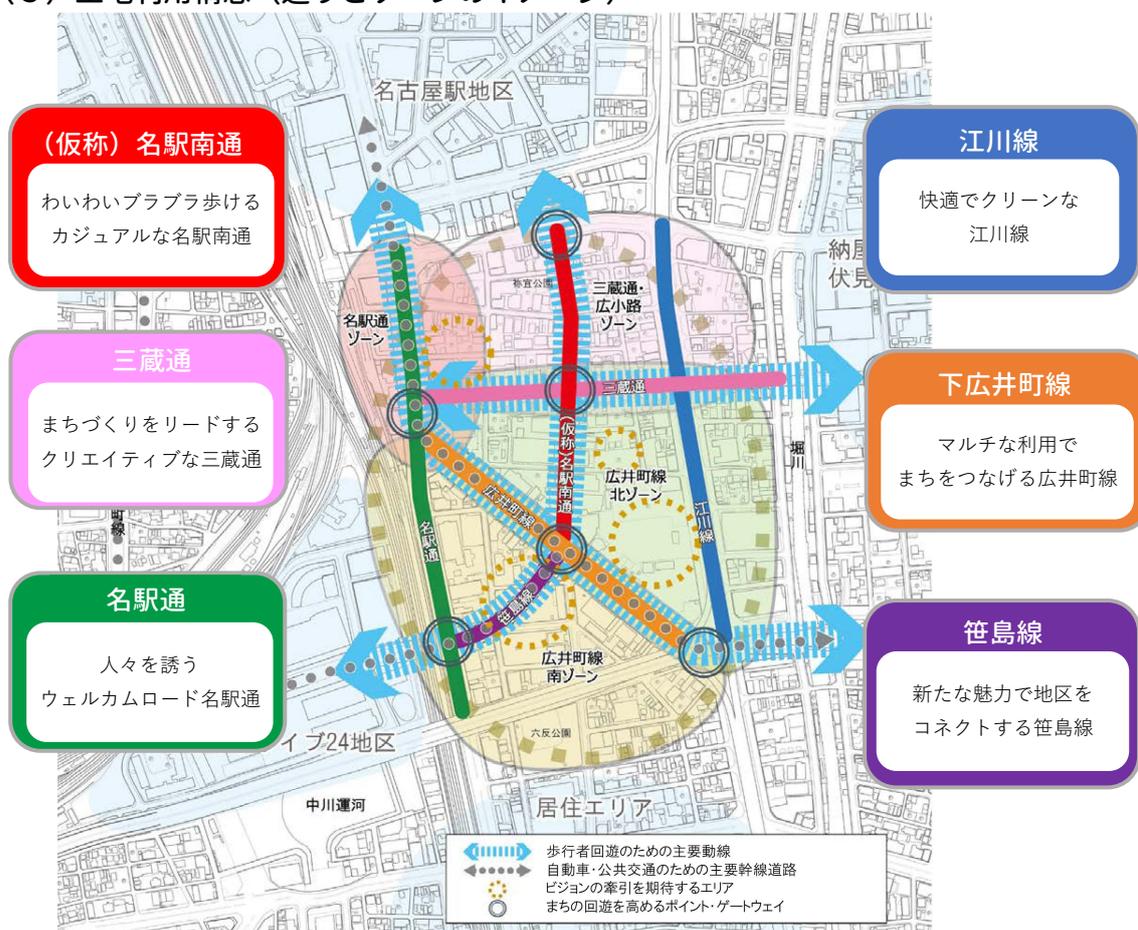
## (3) まちづくりの方針 みんなの希望 (〇〇したい) をかなえるまちを目指します

<p><b>【職・住・コミュニティ】</b> 住みたい 働きたい 憩いたい 心地よいオアシスのまち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●名古屋駅から近い距離で、ゆとりある空間や四季折々の彩りを感じられるとともに、都心の利便性も兼ね備え、誰もが住みたい、働きたい、憩いたいと思え、多様なライフスタイルを実現できるまち</li> <li>●既存コミュニティをはじめ地域や人のつながりを大切にしたコミュニティ豊かで、顔の見えるあたたかいまち</li> </ul>	<p><b>【賑わい・活動】</b> 創りたい 楽しみたい わくわくドキドキ集うまち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●豊かな都市空間、人材・企業・施設など多様な地域資源を生かして、常に新しい何かを創り出すクリエイティブなまち</li> <li>●住む・働くだけでなく、飲食・買い物、文化芸術、スポーツ、エンターテインメント、イベントなど様々な個性的な楽しみにもあふれ、昼夜バランスよく賑わい、多世代が集うアクティブなまち</li> </ul>
<p><b>【交通・回遊性】</b> 訪れたい 寄り道したい ふらりブラブラできるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●国際ターミナルである名古屋駅やさしまライブ 24 地区など周辺地域との便利なアクセス、利便性の高い多様な交通手段が整い、外から気軽に訪れやすいまち</li> <li>●地区内には快適で歩きやすい歩行者空間がネットワークされるとともに、通りやエリアごとに多彩な魅力が見つけれ、ふらり寄り道して、ブラブラ回遊したくなるまち</li> </ul>	<p><b>【安心安全・環境・景観】</b> 明るい きれい ほっとしたい スマイルあふれるやさしいまち</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●夜も明るく、交通事故もなく、犯罪・災害への備えが行き届いた安全なまち</li> <li>●エコやバリアフリーへの配慮があり、まち並みが整い、ゴミがなく、誰もがほっと安心して健康に過ごせる人にやさしく美しいまち</li> </ul>

#### (4) 名駅南地区のポジション



#### (5) 土地利用構想（通りとゾーンのイメージ）



<b>名駅通ゾーン</b>	名古屋駅と直結するウェルカムゾーン
<b>三蔵通・広小路ゾーン</b>	駅近接性と界隈性を活かしたアクティブゾーン
<b>広井町線北ゾーン</b>	新たな魅力で人々をひきつけるアトラクティブゾーン
<b>広井町線南ゾーン</b>	周りとのつながりを活かしたオープン・アドバンスゾーン